

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500782
法人名	社会福祉法人 寿泉会
事業所名	八幡園 グループホーム
所在地 (電話番号)	津市津興2947番地 (電話) 059-213-7538
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 8 月 5 日(火)

【情報提供票より】 (H20年7月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.1人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	59,100 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380円		

(4)利用者の概要(7月22日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.6 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	飛鳥クリニック(内科) 渡辺クリニック(外科) 柳瀬クリニック(婦人科)
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋2階建て建物の2階にグループホーム、1階はデイサービス、居宅支援所が併設されている。周囲は住宅地が広がり、ショッピングセンターなどがある商業地域でもある。昨年の運営推進会議をきっかけに近所に祀られている地蔵堂の守を事業所の利用者であることになり、草取りや花壇作りから近隣の住民、利用者の家族とのふれあいが始まり、思わぬ効果が現れている。事業所の母体は多角的な福祉事業を展開するヤナセメディケアグループで、この事業所は所在地が母体とは離れており、事業所の独自性がある。エレベーターで2階へ上がり、玄関から入ると広々としてゆったりした空間が広がり、全体が一目で見渡せ明るい雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度、外部評価の公表後、職員間で要改善の話合いがされ共有化が図られた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日ごろよりセンター長並びに介護支援専門員は職員とコミュニケーションをよく取っており、職員の思い等を踏まえセンター長が自己評価を作成し報告された。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回定期的に開催されている。大変活発な意見交換の場となっている。昨年11月の推進会議で近くの地蔵堂の守をしてもらえないかと提案があり、以来草取りや花壇作りを利用者がして、その中から地域の人との交流や家族も花壇作りに協力してくれるなど波及効果が現れている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会に来訪されたときなど積極的に家族に話しかけるよう心がけている。運営推進会議にはいつも出席要請をしている。行事に招いて利用者や職員とともに食事をしたり親しく本音を聞ける関係作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地蔵堂での奉仕作業などを通して、近隣の方とお付き合いをしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針の中に地域と自由な交流がもてる事業所を目指すとうたわれ、それに添った理念が掲げられている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、基本方針は事業所内に大きな字で書かれ額に入れてわかりやすい所に掲示されている。また、名刺大の大きさを理念、基本方針を書いたものをいつも職員が携帯し、理念のもと介護が実践されている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。近所の地蔵堂の清掃を始めてから地域の方との交流が深まっている。地域の行事にも参加しており、地域の方とのつきあいを大事にしていきたいとの思いである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価公表後、職員へ改善点など示し話し合われた。今年度の自己評価は、センター長が日ごろの様子、職員とのコミュニケーションから独自でまとめ報告された。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催されている。毎回、話し合いが活発にされ、時間をおしてしまうほどである。昨年11月の会議で地域の地蔵堂の守を提案され、早速草取りや花壇作りを始めた所、近所の方との交流の場が広がったり、家族の協力も得られ、家族とのふれあいも出来るなど波及効果があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市へは介護保険の更新手続きなど事務的なことで出向いている。	○	認知症の勉強会の窓口として、津市の生協病院などと連携の実績がある事業所であり、行政とも連携を促進されることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	小口現金預かりの出納、利用者の近況、連絡事項等を書いたおたよりが毎月家族へ送付されている。近況には写真を添えている。預かっている小口現金は個別に銀行口座で保管され、毎月収支を合わせ、通帳上繰越金のないよう0円にして改めて翌月スタートする仕組みにされている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時等でできるだけ顔をあわせて家族と話すよう心がけている。行事などに招いて、食事をしながらリラックスしたムードで本音がでるよう工夫している。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	この春、ホーム長が系列の別の事業所から異動されたが、職員の異動はほとんどない。新規職員が入った時は、マンツーマンで職員が付き、利用者には違和感のないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	母体で職員勉強会が隔月開催され、そこへ参加し、発表等も持ち回りであたり資質の向上に努めている。グループホーム連絡協議会での研修など外部研修への参加、また資格取得する支援など行われている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会に加入し交流している。系列のグループホームと利用者、職員で交流会をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず、話を聞き(思い、意向、好きなこと)、意に添うようにし、事業所での生活に馴染んでもらう配慮を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	金魚の餌やりや、ベランダに置かれたプランターの花の水遣りや、食事の献立、買出し等々声をかけながら利用者とともにやっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞く中で思いの把握に努めている。聞いた事は、個別のケース記録で記録している。自力排泄支援をしていた利用者が、尿路感染しオムツに替えたところ、笑顔が出て、生活に変化が見られたケースもあった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制になっており、月に1回全体会議でケース記録や家族の思いなど踏まえて話し合わせ、介護計画は作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4月、10月の半年に1度見直しされており、変化があれば随時見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助、馴染みの美容院へ行くことなど支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	概ね、協力医療機関での受診が多いが、必ず受診には付き添って行き、医師の所見を聞き、家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに2名事業所で最期を看取っている。出来る限りターミナルケアを実践する方針であり、書面でも利用者、家族と共有できるよう図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は、それぞれにトイレ、洗面台が設置されプライバシーが守られている。介護計画書等書類は鍵のかかる書庫で保管がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的好き嫌いがはっきりした利用者が多い。最低限の決まりはあるが、思いを優先するよう支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は朝食と週2回は独自で作るが、あとは併設のデイサービスで作られている。配膳は利用者の役割になっている。食事で季節感がわかるよう季節の物をメニューに取り入れている。調査日の昼食は素麺に色とりどりの具材が載せられ、栄養一杯であった。職員の介助を受けながら和やかな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週5回概ね午後の時間帯に入る。1階のデイサービスのマッサージ器を借りて、入浴後のマッサージに利用者は余念がない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や洗濯物片付け、金魚の餌やり、花の水遣りなどそれぞれ役割がある。近所の地藏堂へ行くことは楽しみになっている。季節に応じて花見などのお出かけがある。夏は津の花火大会がベランダからよく見え、家族を招いて花火を見るのも楽しみになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダへ出て外気浴をしている。近くの地藏堂へ行くのも日課になっている。ショッピングセンターが近くにあり、買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階へ降りるにはエレベーターを利用するため、利用者が単独では行けない。ベランダは非常口の外階段に通じている。居室からベランダへ出入りは可能である。共有部分が大変広く閉塞感はなく、利用者の様子がどこからでもわかるので、様子をみての対応がされている。	○	心理的に拘束されることも考えられるので、さらにきめ細かい見守りを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は1階のデイサービスの事業所と一体になって訓練している。	○	夜間時の誘導を含め、多様な災害に対応するマニュアルづくりや実践も取り入れた訓練を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で食事が週5日提供され、あとの2日は好きな物を取り入れての利用者の献立の食事で、バランスよく作られている。水分補給は十分な配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングに廊下、対面式の台所、畳のコーナーもあり清潔で明るい。臭いもしない。水槽に金魚が泳いで和ませてくれる。季節の生花が活けられて、職員の心配りがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、家具、椅子など事業所が提供し、利用者に負担にならぬようにとの事業所の配慮がある。テレビや家族との写真が飾られているなど、それぞれの思い思いのものが置かれて自分の居室らしく設えている。		